正月号
編集・発行
東京都港区西麻布
4丁目9番2号
宗教法人「神道大教」本局
神道の友編集部
TEL 03-3407-0524 番

『引き寄せ』

管長　菊池重敏

私は最近人生の引き寄せについて考えています。

現在幸福に感じる生活を送っている人は、過去に今の幸福を願い、実現を強く思い描いていたと思います。

又、現在不幸を感じる生活を送っている人は、過去に不幸になったらどうしょうと、思い悩み恐れて、前向きの心を持てずにいたのではないでしょうか。

言葉には魂が宿ります。病気になったらどうしょう、病気になりませんようにと強く願い、そのようなことを口に出すことによって、宇宙の法則は、「病気」という思いや言葉に反応して、「病気」を引き寄せてしまうのです。

ですから、病気というマイナスの悪い言葉は使わないように心掛けて、良い言葉、明るい言葉を言い、良い思いを念ずることによって、運気が好転してくるのです。

例えば、病気を恐れて病気になりませんように、ではなく、いつも元気で過ごせますようにと、念ずるのです。すると、「元気」を引き寄せられるのです。

心に何を描くのか、どんな思いを持ち、どんな言葉を発するのか、どんな姿勢で生きるのか、それこそが人生を決める最も大切な要因となってくるのです。

人生の全ては、自分の心が映し出したものであり、自分の心が引き寄せたものなのです。

どのように生きるかということは、どのような心をもつかと言う事で、心に何を描くかが、どのような人生を歩むかを決定するのです。

しかし、充実した素晴らしい人生でなければなりません。**充実した素晴らしい人生とは、自分の為にでは無く、誰かの為に自分を差し出す「利他」の人生です。**

そこにおいてのみ、「真我」の幸せを感じられるのです。

最も崇高で美しい心は、他者を思いやるやさしい心、時には自らをも犠牲にしてでも他のために尽くそうと願う「利他」の心です。

「利他」の心に裏打ちされてこそ揺るぎない強固な「真我」の心となるのです。

人の心の奥には「魂」があり、更に奥深く、核心ともいうべき部分に「真我」があり、最も純粋で最も美しい心の領域です。

我々は神の子です。神から戴いた心が「真我」なのです。知性・感性・本能といった心を我々は幾重にもまとっています。その奥底に「真我」があるのです。

「真我」は宇宙の心であり、神の心です。神の心は全てのものを幸せに導き、とどまることなく、成長発展させようとする愛の心です。

全てを良い方向へと導こうとするよき思い、他を幸せにしょうとする美しい心をもつとき、「宇宙の心」「神の心」と同調共鳴して、自ずと物事がよい方向へと導かれるのです。

人生の目的は、まず第一に心を高めること、魂を磨くことです。そのためには、日々の仕事に真摯に取り組み、懸命に努力を重ねることです。それによって心は自ずと研磨され、人格は高められ、より立派な魂へと成長していくのです。

「利他の心」をもつからこそ、世のため人のために働くことができるのです。

人生の幸・不幸は、人生が終結する間際まで分からないといいます。**今、幸福を感じている人は、幸福がいつまでも続くように努力しましょう。今、不幸を感じている人は、日々を明るく、前向きに生きるよう努力しましょう。必ず開運がおとずれ、幸福を感じられる日々がやって来ます。**

全ては、「心に始まり、心に終わる」のです。

究極の引き寄せの極意です。

秋季例大祭で報恩感謝の誠を捧ぐ

今上陛下が御即位され、元号が令和と改元されて初の大祭を十月二十一日（月）好天に恵まれ清々しきそよ風の吹く中、午前十時より霊殿祭、午後一時より本殿祭が大勢の全国教師、教信徒の参列のもと盛大に斎行された。

霊殿祭では、総裁宮を始め歴代管長公、御報斎されている御霊等、特に十月祥月御命日の各御霊方に豊穣なる神饌を供え、浦安の舞や神教歌など慰霊の祭典を尽くし安寧を祈願した。

昼の休憩を入れ、一時より本殿祭が斎行され、同じく海山川野の秋の実りと全国教師信徒の至誠なる新しい御幣、一同の幣帛料が供進せられ、斎主が秋季大祭祝詞を奏上し大神への報恩感謝と、作物の恵みをお与え戴いた御礼とともに更なる守護を祈念した。浦安の舞の奉奏、大祓詞・四大信條を奉唱し、参列者代表の直属教師永山和洋師が感謝の詞を奉読された。

各自が玉串を奉りて拝礼し、撤饌の後、斎主一拝して祭儀を終えた。引き続き三條の教憲が管長より宣られ、一同応答し国歌と教歌を斉唱、管長より参集の御礼と講話がされた。

全て終了の後は、弥栄殿にて直会となり、管長より福引の記念品が当選された方に配られ、和気あいあいと賑やかに夕刻まで懇親が続いた。

霊殿祭修祓　祓主

霊殿祭　祭員一同

霊殿祭　塩湯所役

秋季大祭参拝者

【北海道】札幌八幡宮菊池重敏　村木牧子　澤木和子　中林絹子　牧野はるみ【宮城県】あかつき仙台分教会堀川秀夫【山形県】出雲太神社菊地元宏　菊地康倫　清光院小教会多田悦子【新潟県】諸橋美穂【福島県】永山和洋【茨城県】大熊満【群馬県】大神祖神社森田欣次【埼玉県】木曽御嶽川越大教会山﨑真理　伊藤みよ代　黒田恵理　伊藤大貴　天神大教会冨田信太郎　深田神社和田直樹　岩上直樹　大谷忠平・雅楽天神会【千葉県】大和八幡神社橋村美樹天明道心小教会宮崎日出男宮崎初枝　天明道心小教会信者六名　齊藤均　石平久代　横山照美　臼井正人　松田敏美【東京都】石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会小林宗朝　栄珠稲荷神社永井栄子　森田瑞穂　花咲稲荷神社佐々木亮　良和神社宮内康　平野希久代　平野静子　井上象英　福谷比砂　金田英仙郎　葵拡夢　南笄町会木原桂子　平野多可子　伊藤由香　濵名弘子　田中君枝【神奈川県】不二中教会柊沢覚　山本興一　松野昭男　相田佳代【岐阜県】眞中神社若森正仁　若森正道　関谷正弘　若森真澄　林日奈子　北川めぐみ【愛知県】桃太郎神社若森治彦【滋賀県】滋賀米原小教会吉田善實【奈良県】岡本忠宣【福岡県】扇森稲荷神社長元祥泰【鹿児島県】加治木霧島小教会寺師秀孝　寺師夫人

御供物奉納者

札幌八幡宮菊池重敏　函館敬神大教会工藤隆三　石神神社小野光廣　石神神社教師一同　眞中神社若森正道　若森真澄　中村友香　あかつき仙台分教会堀川秀夫　導徳中教会古市文江　小川千代子・小川春美　清光院小教会湯上弘通　出雲太神社菊地元宏　大神祖神社森田欣次　深田神社深田佳聖　和田直樹　天明道心小教会宮崎日出男　播州白山神社

本殿祭　手水の儀

霊殿祭神教歌奉唱を終えて

霊殿祭　浦安の舞奉奏

本殿祭修祓大麻行事

斎主祭員整列

本殿祭 長元禮典長 奉幣行事

本殿祭

献饌伝供

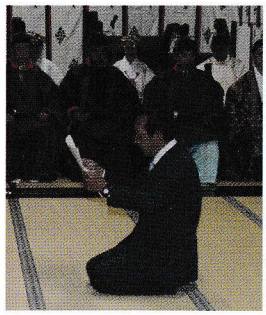
小畑教子　扇森稲荷神社長
元祥泰　高天原神社金丸タ
カ子　加治木霧島小教会寺
師秀孝　赤木彰子　井上象
英　國井高子　寺田勢鶴子
・將二・悠甫　藤本ハル
藤本陽子　村木牧子　松田
敏美　澤木和子　地主舜
平野静子　東京婦人会

幣帛料奉納者

【北海道】函館敬神大教会
工藤隆三　工藤賀子　工藤
超千　工藤一美　札幌八幡
宮菊池重敏　日天講社石川
澄子　関根秀夫　澤口廣
原田貴史　村木牧子　澤木
博　澤木和子　飯島玲子
地主舜　三浦ユリ　三浦満
雄　藤田賢三　中林鉄夫
牧野裕二　梅津一夫【青森
県】石神神社小野光廣　小
野節子　節田志ノ武　佐々
木ヒデ　郡川洋子　横濱栄
子　小笠原達雄　黒田一二
三【山形県】清光院小教会
湯上弘通　多田悦子　山川
信利　出雲太神社菊地元宏
菊地康倫【宮城県】あかつ
き仙台分教会　堀川秀夫

桂田安子　桂田啓生　桂田
雅子　桂田悟【福島県】永
山和洋【茨城県】大熊満【
栃木県】出雲大神像観中教
会佐藤正美　佐藤悦子　柴
山清　御嶽永野中教会永澤
忠彦　永澤正義　歳徳神社
板倉進　板倉百合子　板倉
聖子　板倉信之助　高藤神
社坪山欣也　坪山仁美　坪
山雅則　鈴木一男　福田春
光　福冨信男　飯塚まゆみ
【群馬県】大神祖神社森田
欣次【埼玉県】木曽御嶽川
越大教会山﨑真理　伊藤み
代　黒田恵理　天神大教会
冨田信太郎　冨田茂雄　田
中守　深田神社深田佳聖
和田直樹　木下博子　栗原
一弘　鈴木明子　西山昌男
東由加雄　渡辺かず子　佐
藤幸雄　吉村秀子　建沼道
夫　岡久和恵　國井高子
岩上直樹　大谷忠平・雅楽
天神会【千葉県】大和八幡
神社橋村美樹　浦安の舞同
好会　天明道心小教会宮崎
日出男　宮崎初枝　國井明
宮崎利幸　宮崎貞幸　吉川
カヅヨ　稲葉静子　金澤啓

副斎主大祓詞先導



感謝の詞　永山和洋師

本殿祭斎主・祭員一同

本殿祭　参列者玉串奉奠

本殿祭　浦安の舞奉奏

【祭員奉仕者・敬称略】

斎主・菊池重敏管長
副斎主・長元祥泰禮典長
典儀・森田欣次
祭員・堤龍一郎、和田直樹、冨田信太郎、大熊満、菊地康倫、小林宗朝、若森治彦、金田英仙郎、諸橋美穂、浦安の舞・橋村美樹、林日奈子
神教歌・森田瑞穂、多田悦子、村木牧子、永井栄子、若森真澄
伶人・雅楽天神会
総合司会・眞中神社・若森正道

御奉仕に感謝致します

この度の秋季例大祭斎行に際し、連日準備と奉仕に携われた祭員並びに教師の方々、千葉・天明道心教会（宮崎日出男教会長）並びに東京婦人会、青年会各位の多大なる御支援を賜り、滞りなく大祭が斎行出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

光　古宮茂雄　菅野一男
鈴木裕基子　田代玲子　辻村豊春　溝口孝恵　石川昌幸　飯田栄子　沖田毅　沖田基次　笠川一男　坂上東一　櫻井嘉津子　鈴木孝雄　田代恵美子　二宮義雄　早川志津江　東千鶴子　三浦知子　山田道子　山元真一　山元達好　板垣仁一朗　齊藤均　石平久代　横山照美　坂井はるひ　今村滋　白井光一　白川貴朗　前川征男　前川和範　臼井正人　石川進　池田良穂【東京都】石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会小林宗朝　小林昌代　小林晴比古　天興大教会奉賛会一同　天明大教会穐山博　白鬚神社品川幸子　品川一夫　奥寺直子　栄珠稲荷神社永井栄子　森田瑞穂　良和神社宮内康　井上象英　太田久　大塚和彦　島田栄造　斎京則子　佐々木亮　葵拡夢　金田英仙郎　福谷比砂　日向敦子　弓場祥子　馬場いさ　南笄町会　木原照男　平野多可子　伊藤由香　小松原誠　濱名弘子　田中君枝【神奈川県】不二中教会齋藤和幸　柊沢覚　山本興一　八阪青山御祈禱所井上直幸　井上壽子　井上八城　山神宮勝亦健一　八坂宣教所成井勇吉　成井朝江　成井康雄　髙草木恒雄　坂本八千代　池田美恵子　鈴木啓司　纐纈司　大野百合子　松野昭男　宮崎紗伎　相田佳代　島田好子　戎野真夫【静岡県】荒浪仁一郎【長野県】三井雅之　寺嶋日登美【新潟県】島田ミネ　諸橋美穂【山梨県】吉田仁六【愛知県】玉野御嶽神社加藤剛之　桃太郎神社若森國道　岡生子【岐阜県】岐阜県教師会　眞中神社若森正仁　若森正道　関谷正弘　若森真澄　林真太郎　北川めぐみ　小川晴人　眞中神社教師会　導徳中教会古市文江　古市享　小川千代子　水都神社林千津　八幡天水宮遠藤貴子【三重県】森本英明【滋賀県】滋賀米原小教会吉田善實　平野希久代・瑞代　谷利繁則　山田綾乃　細川源太郎　藤

婦人会による振舞甘酒を戴く参拝者

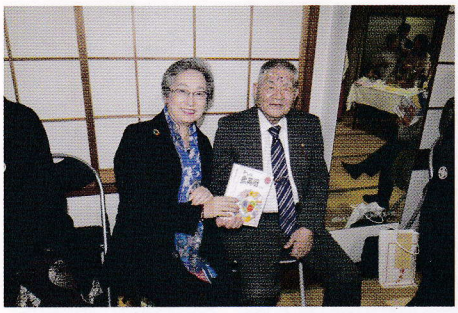
国歌斉唱

管長　三條の教憲奉読

総監が記念品当たりました

私達も当たりました

私も当たったよ！



井上象英先生より今年も暦を沢山寄贈されました

まだ福引き当たってない人　ハ～イ！

御満悦の管長

本晴美　八軒真澄　髙橋良一　藤野カズ子　遠藤ディズヘアーアヤノ　堂坂とく山田洋子　山田清美【京都府】堤龍一郎【兵庫県】播州白山神社小畑教子【奈良県】うづめ大教会木村剛正國親小教会早川政弘　大神茅原小教会坂口光三郎　本多光夫　本多孝子　本多恵岡本忠宣【高知県】高知中教院吉良祝人　吉良羊子吉良典世　山本純代　東川真也【愛媛県】木野山中教会野田智子【福岡県】扇森稲荷神社長元祥泰　筌口晃二　後藤勇　寺田勢鶴子寺田將二　寺田悠甫　永瀬幸子　今村文夫　三浦恒良【宮崎県】高天原神社金丸タカ子　金丸和充　加藤和代藤本陽子【鹿児島県】加治木霧島小教会寺師秀孝　髙田賴子・宮子　黒田茂實

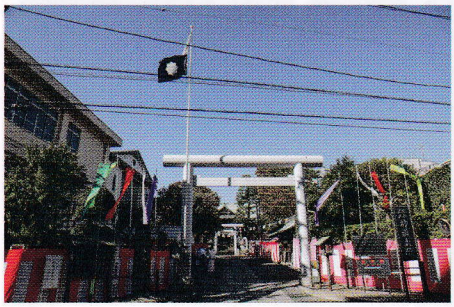
明治天皇御製

おのがじしつとめむわざをおこたらば
人とうまれしかひやなからむ
世の中の事ある時にあひてこそ
ひとの力はあらはれにけり

本殿祭　終了後短拍手一拝

大嘗祭奉祝記念大祭を無事に終えて

管長　菊池重敏



記念大祭の準備の整った境内

今上陛下におかせられましては、十一月十四日浄暗の中、翌日に掛けて大嘗祭を御親祭遊ばされました。これは、御一代一回の国家の重儀であり、国民こぞって御祝い申し上げる慶賀でございます。

神道大教と致しましても御祝い申し上げたく、大嘗祭奉祝記念大祭を十一月二十一日午前十一時より斎行致しました。

全国より大勢の教師信徒、又、御来賓には旧高松宮付宮務官佐藤進様の御参拝を賜り、厳粛かつ盛大に祭典を行ないました。

特に今回は、神道総裁有栖川宮幟仁親王の「令旨」を奉読し一同が応答致しました。

記念大祭終了後、大前にて天明道心教会長宮崎日出男先生に大嘗祭奉祝記念大祭に際し、長年の神道大教への貢献と此の度の記念事業への多大なる御協賛に対し、直筆の感謝状を贈呈致し、続いて、禮典長・典礼に大主礼の称号を授与し、記念昇級を希望された四十二名を代表して出雲太神社禰宜の菊地康倫師に辞令を交付致しました。

管長として、奉祝記念大祭御参列と御協賛の御礼の挨拶をさせて戴きました。

会場を御霊殿に移しまして、真打の春風亭柏枝師匠の奉納落語が披露され、巧妙な話芸と伎芸に会場は爆笑の渦に満たされました。続いて、岐阜県の眞中神社様より御奉納戴きました、信者様手作りによる紅白丸餅の

修祓の儀

斎主以下祭員祓所へ参進

東京婦人会介添えの手水の儀

大嘗祭奉祝記念大祭参拝者（敬称略）

【北海道】札幌八幡宮菊池重敏　村木牧子　傳法谷智敬【山形県】出雲太神社菊地元宏　菊地康倫【新潟県】諸橋美穂【茨城県】大熊満【群馬県】大神祖神社森田欣次【埼玉県】木曽御嶽川越大教会伊藤み代　天神大教会冨田信太郎　深田神社和田直樹　岩上直樹　大谷忠平・雅楽天神会【千葉県】大和八幡神社橋村美樹　天明道心小教会宮崎日出男　飯田栄子　田代玲子　古宮茂雄　三浦知子　山田道子　辻村良子　前川征男齊藤均　石平久代　横山照美　松田敏美【東京都】石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会　小林宗朝　白鬚神社品川一夫　栄珠稲荷神社永井栄子　森田瑞穂　花咲稲荷神社佐々木亮　良和神社宮内康　井上象英　福谷比砂　金田英仙郎　葵拡夢　佐藤進　伊藤由香　大関清美　永澤穣　今井智子・友人【神奈川県】松野昭男　纐纈司【岐阜県】眞中神社若森正仁　若森正道　梶原敏雄　梶原千代栄　所宗司　若森真澄　林真太郎　林日奈子　北川めぐみ【愛知県】桃太郎神社若森治彦　八幡天水宮遠藤貴子　飯田容子　伊木宏行　伊木臣元【京都府】堤龍一郎【奈良県】岡本忠宣【高知県】吉良祝人【福岡県】扇森稲荷神社長元祥泰【宮崎県】金丸タカ子

御供物奉納者

廣瀬惠子　三山宮宮田博正　眞中神社　眞中神社若森正仁　若森正道　梶原敏雄　若森真澄　導徳中教会古市文江　出雲太神社菊地元宏　大神祖神社森田欣次　深田神社深田佳聖　和田直樹　天明道心小教会宮崎日出男　八幡天水宮遠藤貴子　扇森稲荷神社長元祥泰　高天原神社金丸タカ子　赤木彰子　葵拡夢　藤本ハル　藤本陽子　諸橋孝・諸橋美穂　松田敏美　伊木宏行

幣帛料奉納者

【北海道】函館敬神大教会

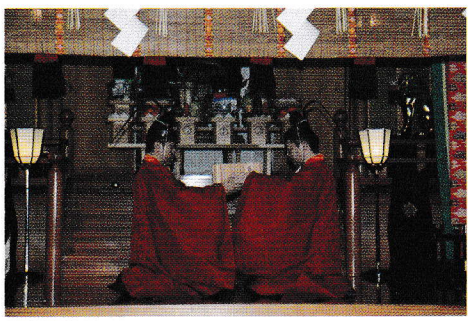
餅まきが行なわれ、祭典も絶好の高まりの中、全ての祭儀が終了致しました。続いて会場を本局近くの「レストランひらまつレゼルヴ」に移し、奉祝記念祝賀会を開催致しました。始めに菊地元宏責任役員より開会の辞が述べられ、若森正道実行委員長より、記念事業への御協力の御礼の挨拶が有り、管長として、御奉賛の御礼と「直筆色紙」と「言の葉集日めくりカレンダー」の紹介を兼ねた挨拶をさせて戴きました。続いて、御来賓の旧高松宮付宮務官佐藤進様より御祝辞を賜り、高松宮様家と神道大教との長年の関わりについて、かたじけなくも有り難いお話を頂戴致しました。乾杯の発声が岡本忠宣責任役員によってなされ、開宴となり、和やかな雰囲気の中、楽しいひと時も刻々と過ぎ、お開きの言葉を齋藤均実行副委員長より述べ、続いて、長元祥泰総監の音頭によって聖寿万歳が力強く行なわれ、令和の重儀を祝う全ての行事が納められました。

開扉の儀

献饌の儀

当日御参拝戴けなかった教師信徒の方々より沢山の御供物や幣帛料の御奉納を戴き、更には、連日準備と奉仕に携われた祭員並びに東京婦人会、青年会の皆様を始め、教師信徒有志の多くの皆様方の赤心による真心の籠った御奉仕により、奉祝記念大祭を盛大に斎行させて戴く事が出来ました事を衷心より感謝申上げます。

大祓詞・四大信條奉唱


幣帛供進の儀

工藤隆三　札幌八幡宮菊池重敏　廣瀬惠子　村木牧子　傳法谷智敬【山形県】出雲太神社菊地元宏　菊地康倫【茨城県】大熊満【群馬県】大神祖神社森田欣次【埼玉県】木曽御嶽川越大教会伊藤み代　天神大教会冨田信太郎　深田神社深田佳聖和田直樹　岩上直樹　大谷忠平・雅楽天神会【千葉県】大和八幡神社橋村美樹　浦安の舞同好会　天明道心小教会宮崎日出男　菅野一男沖田基次　三浦知子　田代玲子　古宮茂雄　山田道子齊藤均　石平久代　横山照美　前川征男【東京都】石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会小林宗朝　天興大教会奉賛会一同　白鬚神社品川幸子　栄珠稲荷神社永井栄子　森田瑞穂　良和神社宮内康　佐藤進　馬場いさ　伊藤由香　大関清美永澤穣【神奈川県】纐纈司大岩登根　松野昭男【新潟県】諸橋美穂【愛知県】八幡天水宮遠藤貴子　伊木宏行【岐阜県】岐阜県教師会眞中神社若森正仁　所宗司梶原敏雄・千代栄　若森真澄　林真太郎　北川めぐみ小川晴人　眞中神社教師会導徳中教会古市文江　古市享　小川千代子　水都神社林千津【京都府】堤龍一郎【奈良県】岡本忠宣【福岡県】扇森稲荷神社長元祥泰【宮崎県】高天原神社金丸タカ子　藤本陽子【鹿児島県】髙田賴子

【祭員奉仕者・敬称略】

斎主・菊池重敏管長
副斎主・長元祥泰禮典長
典儀・森田欣次
祭員・堤龍一郎、和田直樹、冨田信太郎、大熊満、菊地康倫、小林宗朝、若森治彦、金田英仙郎、諸橋美穂、岩上直樹
浦安の舞・橋村美樹・林日奈子
楽師・雅楽天神会
総合司会・若森正道

大嘗祭奉祝記念事業　奉賛者

宮崎日出男、齋藤均、冨田信太郎、小泉輝人、鈴木一男、平野希久代、工藤隆三、工藤賀子、工藤超子、工藤一美、福谷比砂、原田貴史、吉田仁六、伊佐地誠嗣、寺田陸弘、永澤穣、堤龍一郎、菊地康倫、若森真澄、林日奈子、諸橋美穂、千葉佳彦。

令和元年十一月二十一日までに百七十四名、約壱千萬円の奉賛金を承りました。

本教への不断の御支援を賜り、心より御礼申し上げます。

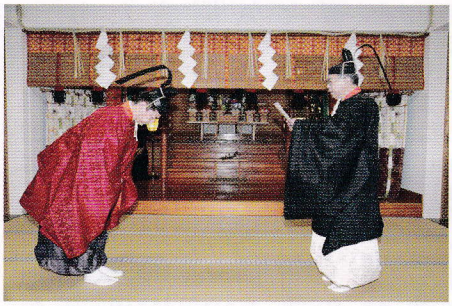
※令和元年号の奉賛者の御名前が間違っていましたので以下の通りに訂正させて戴きます。

誤　島田佳子さん

正　島田佳代子さん

謹んでお詫び申し上げます。

感謝状を受ける宮崎日出男先生



大主礼の称号を授与される冨田信太郎先生

記念大祭　参列者

大嘗祭記念昇級者

権中教正　大熊満、菊地康倫、橋村美樹、**少教正**　白川貴朗、福田春光　**権少教正**　福冨信男、山田綾乃、中村明義、**大講義**　若森禮子、若森秀子、工藤超千、**権大講義**　永井栄子、成井勇吉、森田瑞穂、今泉淳子、所宗司、古市文江、**中講義**　柿添政可、池田美恵子、遠藤貴子、若森真澄、**権中講義**　福谷比砂、冨田茂雄、永山和洋、森本英明、山崎真理、長元恵美子、**少講義**　成井康雄、大念寺剛、千葉佳彦、鈴木啓司、原田貴史、赤堀睦雄、諸橋美穂、**訓導**　三井雅之、藤森遼、折井正朋、飯田容子、小泉輝人、黒田茂實、寺田勢鶴子、林日奈子以上　全四十二名

昇級辞令を受ける菊地康倫先生

餅　ま　き

真打の春風亭柏枝師匠の巧妙な話芸を披露

祝宴に臨む参加者

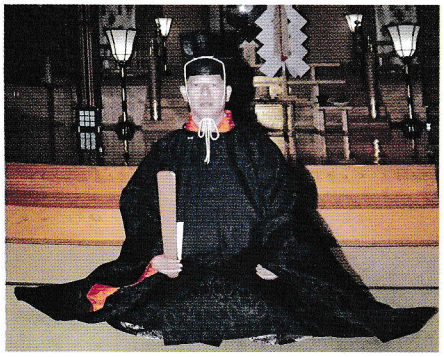
岡本責任役員の乾杯の発声

御来賓 佐藤進様の祝辞

若森実行委員長挨拶

新年を迎えて

神道大教院
総監・禮典長
長元祥泰



先ず皇紀二六八〇年、令和二年の年頭にあたり、聖寿の万歳と御皇室の安泰を御祈念申し上げ、全国教会・神社の先生方、崇敬者皆様方の弥栄を御祝い申し上げます。

平素より神道大教・神道大教院の神事・諸事には格別の御高配・御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

天皇陛下におかれましては令和元年五月一日、御即位遊ばされ、十一月十四日には「大嘗祭」を斎行し、天照大御神と同殿共床なさいました。

誠に慶賀の極みに存じ上げます。

神道大教におきましては、昨年より「大嘗祭奉祝記念行事実行委員会」を立ち上げ、若森責任役員に実行委員長、齊藤均大会議議員に実行副委員長に就任戴き、準備を進めて参りました。

皆様にお願い申し上げました奉賛金も、お陰をもちまして予定額の一千万円を超え、御本殿の改修や弥栄殿の補修も年内には完成致します。

皆様方の御厚情に衷心より御礼申し上げます。

また十月には大嘗祭に先立ち、菊池管長をはじめ責任役員にて伊勢の神宮にて外宮・内宮の順にて御垣内参拝を行いました。

二十一日の秋季大祭より奉祝の記帳も始めさせて戴き、宮内庁へお届け致しました。

そして十一月二十一日には旧高松宮付宮務官の佐藤進氏に御来賓として御参列戴き「大嘗祭奉祝記念大祭」を菊池管長以下十三名の祭員と二名の巫女舞により斎行致しました。

この記念大祭では平成の御代替りにならい有栖川宮幟仁殿下の「令旨」を管長先生が奉読し一同で応答致しました。

国歌斉唱の後「天明道心教会」の教会長宮崎日出男先生に高額の御寄付と長年の功績に対し感謝状の授与を行い、小生と堤・冨田・大熊各典礼の四名に対し「大主礼」の称号を賜りました。

また今回の大嘗祭にあたり、四十二名の方が記念昇級なさり、代表として出雲太神社禰宜の菊地康倫先生に、辞令が交付されました。

例年の大祭以上の厳粛な祭典となり、禮典長として大変感動致しました。

祭典終了後、神賑行事として霊殿にて真打の「八代目春風亭柏枝」師匠に奉納落語を行って戴き、岐阜県鎮座の眞中神社より奉納戴いた御餅にて「餅まき」を行いました。

その後場所を「レストランひらまつレゼルヴ」に移し、盛大に直会を行う事が出来ました。

平成から令和へと変わった昨年は、改めて「日本人で良かった。日本に生まれ育って良かった。」と実感する事が出来た一年でした。

本年は秋篠宮文仁親王殿下の「立皇嗣の礼」が行われます。

未来永劫皇室を中心とした素晴らしい国「日本」が隆昌し、皆様方にとりまして幸多き一年となります様お祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。

力の籠った聖寿万歳

齊藤実行副委員長　閉会の辞

大教院の小町娘

孔子の教え『論語と素読（そどく）』

素読とは

素読とは、意味や内容の理解はさておき、優れた文章とくに古典の多くを、声を出して、何度も何度も繰り返して読むことです。つまり、輪読します。

そこで文章の中に隠されている真意を頭に、心の底に、脳裏にしみこませて記憶し、理解してゆくための方法であります。

とくに皇帝や将軍、武将教育、江戸時代における寺子屋教育、藩校や塾教育では、成人や大人となるための人づくり、道徳教育の適切な方法の一つとして行われていました。

素読の「素」は、白色の絹、飾り気のない、生地のまま、生まれたまま、簡単とか初め、まこと、などの意味があります。

その「素」の漢字が意味するように、真っ白な純粋な気持ちで人間力を養う根本的な、根を養う行為が素読という方法なのです。

素読の仕方

素読には決まったルールや難しい規則はありません。時として、読み方に調子が付く場合もありますが、それは人様々でよろしい。読み方の要領さえしっかり押さえて読み上げれば、着実に効果が上がります。

① 準備：
　単座か着座をする。
② 自然体で姿勢を正す。
③ お腹の底から声を出すようにして読む。
④ 始めは意味を理解しようと考えない。
⑤ 何度も繰り返して読む。
⑥ 詩のように習慣化させること。

「読書百遍。意自ずから通ず」と云う言葉がありますが、論語にも「学びて 時に之を習う」とあり「また説ばしからずや」と続きます。

素読スピードは自然体に無理のないように進めること。また、声を出して読む「音読」と同時に、眼を使って読む「黙読」自分以外の人達の声を耳で聞いたり、皮膚感覚で聴く「感読」があります。人間は全ての五感を同時に使って身体全体に染み入る読み方、つまり「体読」することが理想的なかたちと言えます。

多くを覚えるよりも、確実に覚えましょう。

今回のテーマは「孝」についてです。

「孝」其ノ一（學而第一）

孔子曰く、弟子入りては則ち孝、出でては則ち弟、謹みて信。
汎く衆を愛して仁に親しみ、行いて餘力あらば、則ち以って文を學べ。

孔子が言われました。
家庭に於いては両親に孝行を尽くし、社会に出ては目上や先輩の者によく仕え、自らの行いを謹んで信義を重んじ、その言葉に気をつけることです。
また、嘘を言わないようにして、広く人を愛し、周囲には愛情をもって接することを心がけることです。
そして、仁徳のある人物には自分から求めて親しむようにすること。そのように人としての務めをしっかりと行って、更に余力があるならば、先人や先賢者が書かれた書物を読んで、自らの教養を高めておくことです。

「孝」其ノ二（學而第一）

有子曰く、君子は本を務む。本立ちて道生ず。
孝弟なる者は、其れ仁を為すの本か。

弟子の有先生が言われました。
仁徳のある人物は物事の根本を重視しています。その根本がしっかりしていれば、道は自然に開けるものであって無理が無い。誠に親孝行であって、兄姉や目上に素直であるということは、仁道を行う上での根本とするものではないでしょうか。

＊有子（ゆうし）＝孔子の門人。姓は有。名は若。孔子より十三歳若い

この有子に対する答えとして孔子が「孝」の原点を説いています。

それが「子曰く、巧言令色鮮なし仁」

ことさらに言葉を飾り、顔色をよくする者は、仁の心が乏しいものだよ。

やたら誰彼となく迎合し、お世辞の上手い人物は、仁愛も仁徳の心も薄いと心得ておくことです。

「孝」其ノ三（里仁第四）

孔子曰く、父母の年は知らざるべからざるなり。
一は則ち以って喜び、一は則ち以って懼れる。

孔子が言われました。
両親の年齢が分からないと云うことではいけません。
一つには、両親の長寿を心から喜び、一つには、老い先の短いことを恐れて「孝」を尽くすためでもあります。

論語指導士
井上象英

大嘗宮拝観

十二月三日、菊池管長と長元総監が一般公開された大嘗宮を拝観致しました。

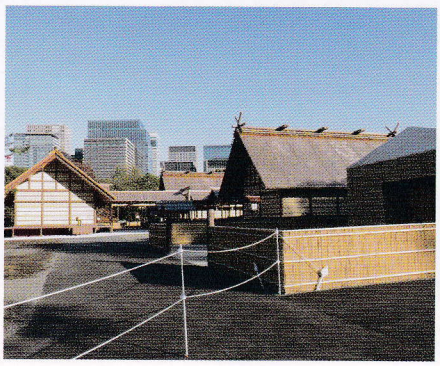
大嘗祭は、稲作農業を中心とした我が国の社会に古くから伝承されてきた収穫儀礼に根ざしたものです。

天皇陛下が御即位の後、初めて大嘗宮において新穀を皇祖及び天神地祇に御供えになって、自らもお召し上がりになり、皇祖及び天神地祇に対し安寧と五穀豊穣などを感謝遊ばされるとともに、国家・国民のために、御祈念遊ばされる儀式です。

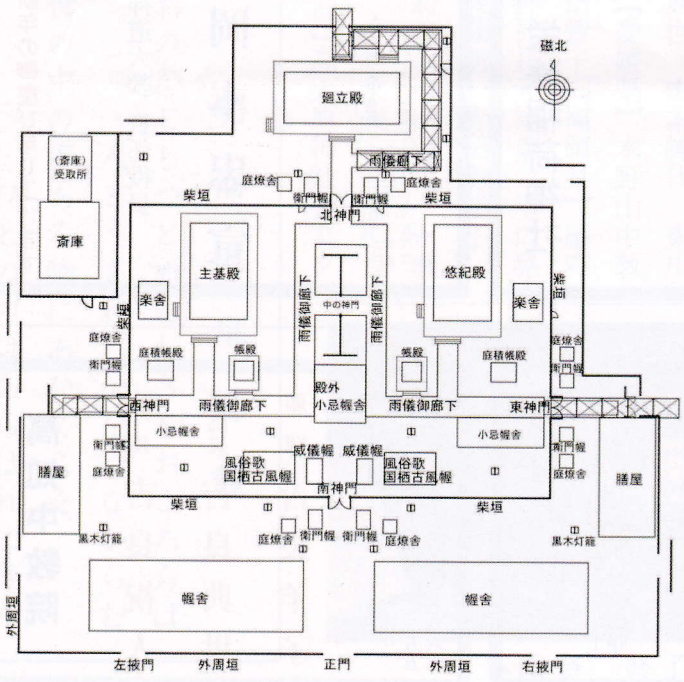
皇位継承に伴う御一世に一度の重要な儀式です。

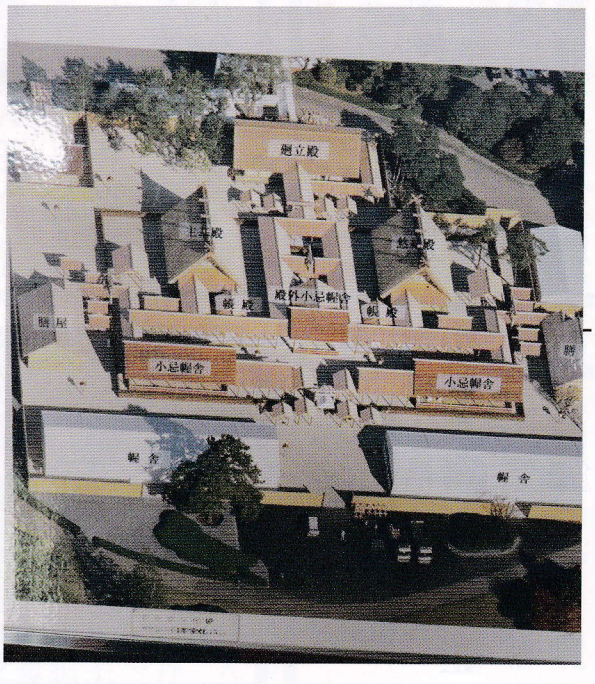
大嘗祭の中心的儀式である「大嘗宮の儀」は「悠紀殿供饌の儀（ゆきでんきょうせんのぎ）」と「主基殿供饌の儀（すきでんきょうせんのぎ）」から成ります。

今回、悠紀殿供饌の儀は令和元年十一月十四日夕方から夜にかけて行われ、主基殿供饌の儀は、その翌日の十一月十五日の暁前に行なわれました。その大嘗宮を十一月二十一日から十二月八日まで一般に公開され、十八日間で七八二、〇八一人の多くの人々が拝観されました。



大嘗宮平面図
（一般参観時には，参観ルート確保のため，一部の建物が撤去されます。）





新年の御慶び申し上げます

令和二年庚子元旦

神道大教本局

名誉管長　木村剛正

管長　菊池重敏

責任役員一同

大会議議員一同

神道大教院総代一同

うづめ大教会

教会長　木村剛正

副教会長　木村孝子

〒六三〇－八二三七
奈良市中筋町二四－一
TEL〇七四二－二三－二四一九
FAX〇七四二－九三－七三二四

神道大教札幌八幡宮

宮司　菊池重敏

〒〇六一－一二六八
北海道北広島市輪厚中央五丁目三一－十六
TEL〇一一－三七七－三二八八
FAX〇一一－三七七－四一九八
ホームページ http://www.hachimangu.com/

眞中神社

宮司　若森正仁

名誉宮司　若森正道

〒五〇二－〇八五七
岐阜市正木一三六－二
TEL〇五八－二三九－三一八〇
FAX〇五八－二三九－三一九四

高天原神社

宮司　金丸タカ子

〒八八〇－〇八七七
宮崎市宮脇町八四
TEL〇九八五－二七－一五七二
FAX〇九八五－二八－一二〇二

神道大教　出雲太神社

宮司　菊地元宏

禰宜　菊地康倫

〒九九〇－〇五二四
山形県寒河江市高松二八〇
TEL〇二三七－八七－一〇二八

扇森稲荷神社　宮司

長元祥泰

家内安全・商売繁昌・厄除・八方除・交通安全・病気平癒・結婚式
初宮詣・七五三・子宝成就・安産・子孫繁栄・学業成就・合格祈願
地鎮祭・竣工祭・上棟祭・安全祈願祭・神葬祭・各種祈祷祭

〒822-0034　直方市山部４４８－１
電話・ＦＡＸ　0949-22-4972

新年の御慶び申し上げます

石大神宮・飯井宮
再興祭祀天興大教会

教会長　小林宗朝

〒一一四－〇〇二三
北区滝野川五－三十二－六
TEL〇三－三九一六－二一七六

栄珠稲荷神社

宮司　森田和子

〒一五四－〇〇〇五
世田谷区三宿一－十四－二十三
TEL〇三－三四一四－五五七五

新年の御慶び申し上げます

神道大教　責任役員

岡本忠宣

〒六三一－〇〇〇三
奈良市中登美ケ丘二－一九八一－七五
TEL〇七四二－四六－二五六二

三山宮

宮司　宮田博正

〒九九七－〇二一一
山形県鶴岡市羽黒町手向二二五
TEL〇二三五－六二－二二六八

神道大教　大山祇神社

宮司　浦田隆司

〒七一九－二一二一
岡山県高梁市川面町一九五八
TEL〇八六六－二六－〇〇五六

高知中教院

院長　吉良祝人

副院長　吉良典世

顧問　吉良羊子

〒七八〇－〇〇四三
高知市寿町三－六
TEL〇八八－八二四－二一五五
FAX〇八八－八二四－七八六七

新年の御慶び申し上げます

令和二年庚子元旦

天神大教会
教会長 冨田信太郎
〒三五六―〇〇二八
ふじみ野市西原一―一―十八
TEL〇四九―二六一―二八三二

日笠山八雲大教会
教会長 網干裕仁
〒六七六―〇〇八二
兵庫県高砂市曽根町一七一八―一
TEL〇七九―四四八―一二三二

函館敬神大教会
教会長 工藤隆三
〒〇四〇―〇〇七四
函館市松川町二十二―十六
TEL〇一三八―四一―二七三五

新年のお慶び申し上げます
大会議議員
直属 今野昭男
〒二三七―〇〇七二
神奈川県横須賀市長浦町二―六六

真柱本城宣教所
高崎正枝
〒八〇七―〇八〇七
北九州市八幡西区本城学研台一―九―一五

神道大教 滋賀米原小教会
水心宮
吉田善實
〒五二一―〇〇一二
滋賀県米原市米原七〇四
連絡先
TEL〇六―六九一〇―八六五一
自然舎内

新年のお慶び申し上げます
香取神社
駒形神社
宮司 齊藤均
（大会議議員）
〒二七二―〇〇〇一
千葉県松戸市幸田二―一八三
TEL〇四七―三四一―一三九四

御嶽永野中教会
教会長 永澤忠彦
副教会長 永澤正義
〒三二八―〇二一二
鹿沼市下永野八二
TEL〇二八九―八四―〇三二〇

普明神社
苗場明道会
松井苗子
松井興太郎

謹賀新年
井上象英
（神道大教 大会議議員）

出雲大神像観中教会
佐藤正美
佐藤悦子
桧山一彦
松井貞己
柴山清
〒三二一―〇一三三
宇都宮市新富町四―九
TEL〇二八―六五三―〇四六一

神道大教
大神祖神社

神道大教
鞭韜（たたら）神社
宮司 小林正昭
〒二七三―〇一一三
千葉県鎌ケ谷市道野辺中央一―二―十一
TEL〇四七（四四三）〇〇六六
FAX〇四七（四四四）九四〇三

深田神社
宮司 深田佳聖
〒三四九―〇一四一
埼玉県蓮田市西新宿二―九八
TEL〇四八―七六九―五五五三

神道大教
あかつき仙台分教会
代表役員
堀川秀夫
鎌田光彦

清光院小教会
教会長 湯上弘通
〒九九九―三一六三
山形県上山市軽井沢一―一―三六

神道大教
山神宮
宮司 勝亦健一

金刀比羅神社
宮司
杉本富子
〒五〇一―三九一四
岐阜県関市鋳物師屋三―三―十三
TEL〇五七五―二二―三四八五
FAX〇五七五―二二―三四六三

榛名神社講社
榛名孝善坊
代表役員　柿添政可
責任役員　小泉輝人
〒三七〇―三三四一
群馬県高崎市榛名山町一〇二
〒一七五―〇〇九一
東京都板橋区赤塚一―十一―七

新年の御慶び
申し上げます
令和二年庚子元旦

八幡天水宮
宮司　深谷章男
〒四七四―〇〇六一
大府市共和町五丁目六三
TEL〇五六二―四六―〇九二一
〒四七四―〇〇五六
大府市明成町一丁目一二
TEL〇五六二―四六―六三三五

新年の御慶び
申し上げます
神道伊勢月日布教所
大念寺　剛

謹賀新年
直属　飯田容子
〒四五三―〇〇二一
愛知県名古屋市中村区
松原町一―四三―二

株式会社　美術会館
ギャラリー青　羅（貸画廊）
代表取締役社長
池田美恵子
東京都中央区銀座三―一〇―一九
美術家会館
TEL〇三―三五四二―三四八一代

『伊豆修善寺あさば』邸内社　例大祭斎行

管長の開祭の挨拶

昨年九月十九日に「伊豆修善寺あさば」の邸内社新築移設遷座祭を菊池管長他局員によって斎行した。遷座を記念して、毎年九月十九日を例大祭日と選定し、令和元年九月十九日に初の例大祭を、菊池管長、大熊局員が奉仕し、晴天の青空の広がる中十代目浅羽一秀頭主を始め大勢の関係者が参列する中、厳粛裡に祭典が行われた。

今年の台風十九号が過去最大級の勢力で伊豆半島に上陸し、甚大な被害が推測されていたが、「あさば」の頭主は、被害がなく大神様の御守護のお陰と感謝していた。

㈱丸昌豊洲市場　例大祭斎行

修祓の儀

東京都中央卸売市場築地の豊洲市場への移転に伴い、昨年十月三日㈱丸昌の移転清祓を菊池管長斎主によって斎行した。移転日の十月三日を大祭日と選定し、市場の関係上十月三日に一番近い前日の休業日を大祭日とした。今年の大祭は、菊池管長が斎主を務め、大熊局員が鳴動神事の釜鳴を奉仕し、社長小川浩氏を始め社員が参列する中、厳かに祭儀が執り行われた。

管長と大熊局員

管長の動向（対外行事・事務局）

四　月　二十二日　責任役員会
令和元年
五　月　一　日　践祚改元奉告祭斎行
　　三　日　教師研修会（第一回）三日間（神道大教院）
　　十　日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　二十日　第四回大嘗祭奉祝記念行事実行委員会開催
　　二十一日　責任役員会
　　月次祭斎行
六　月　二　日　会計会議（神道大教）
　　三　日　近畿教師会親睦旅行参加（琵琶湖）二日間
　　四　日　管長教場訪問・奈良県うづめ大教会
　　五　日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　六　日　神道講座出席（國學院大學）二日間
　　七　日　（彬子女王殿下昼食会出席　國學院大學）
　　十一日　九州教区研修会（扇森稲荷神社）三日間
　　二十一日　月次祭・夏越大祓斎行
　　二十二日　責任役員会
　　二十四日　東京都教派神道連合会理事会出席
　　（渋谷東急本店）
七　月　十　一日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　十　九日　第四回神道大教院祭式委員会開催
　　二十日　会計監査会（神道大教）
　　二十一日　月次祭・中元霊祭斎行
　　二十二日　第一回神道大教建設委員会開催
　　二十五日　第四十二回神道大教院総代会開催
　　二十六日　第二十期第三回大会議開催
　　二十七日　第五回大嘗祭奉祝記念行事実行委員会開催
八　月　十　九日　嘱託者と懇親会開催
　　二十一日　月次祭
　　二十二日～二十八日　神道學院夏季研修会開催
　　二十九日　責任役員会
九　月　七　日　南笠町会秋祭り開催（神道大教院境内）
　　十　三日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　十　九日　「伊豆修善寺あさば」邸内社大祭斎行
　　二十一日　月次祭・秋分霊祭斎行
　　二十五日～二十七日　第一回松戸教師研修会開催
　　（千葉県松戸市）
十　月　七日～九日　神宮参拝・眞中神社大祭参拝・
　　移動責任役員会開催（岐阜市眞中神社）
　　十　一日　教派神道連合会理事会出席（神道大教）
　　いのちの重さを考える11.公開講演会
　　（教派神道連合会主催・大教院会場）
　　十　七日　東京都宗教連盟理事会
　　十　八日　有栖川宮・高松宮展墓（豊島岡墓地）
　　二十一日　秋季例大祭斎行
　　二十七日　「㈱丸昌」豊洲市場店大祭斎行
十一月　十　一日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　二　十日　東京都教派神道連合会理事会出席
　　（神道大教当番幹事）
　　二十一日　大嘗祭奉祝記念大祭斎行
十二月　三　日　大嘗宮拝観（管長・総監）
　　十　日　高松宮両殿下御墓所清掃奉仕（豊島岡墓所）
　　十　三日　教派神道連合会理事会出席（國學院大學）
　　十　八日　高松宮喜久子妃殿下御命日祭参列
　　（豊島岡墓所）
　　二十一日　月次祭・年越大祓斎行
　　三十一日　除夜祭斎行

大嘗祭奉祝記念事業御奉賛者記念品

随神添人（ずいしんてんじん）

（神に合わせ人に添う）

神様の御心に合わせるように努め、人には好き嫌いをしないで、まずは、静かに相手に添うようにして行くことで、相手の良さも分かってくる。

大嘗祭奉祝記念事業に御奉賛戴きました真心に感謝申し上げ、一枚一枚心を込めて色紙に書かせて戴きました。

神道大教第十三代管長　菊池 重敏

神道大教 菊池管長の言の葉集 一ミリ前進

（その一・その二）

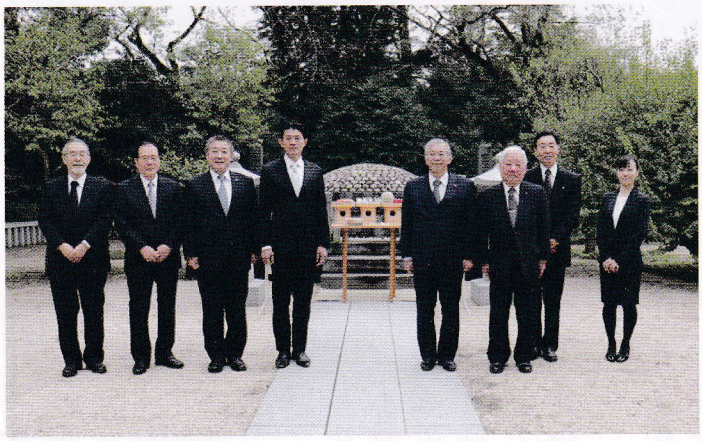
菊池管長の愛情、優しさ、思いやりの一杯詰まった日めくりカレンダー。（六十二のお話、二ヶ月分を収録）

本局でお買い求め出来ます（一冊税込一、五〇〇円）

有栖川宮・高松宮展墓

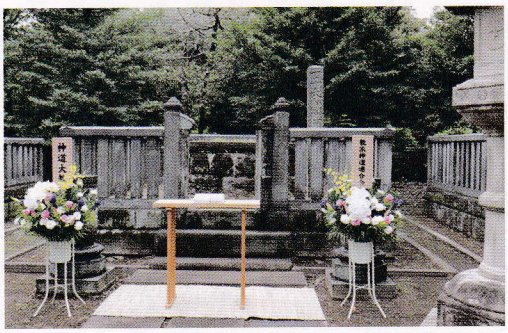
旧高松宮付宮務官の佐藤進様の御協力を戴き、第八代品田管長以来、毎年秋季大祭斎行の御報告として、有栖川宮・高松宮展墓を行っています。

神道大教独自の行事として行っていましたが、近年教派神道連合会の各管長・教主様から参拝を御希望されるようになりました。



写真左から扶桑教教師宮本匡様、旧高松宮付宮務官佐藤進様、扶桑教管長宍野史生様、神習教教主芳村正徳様、神道大教菊池重敏管長、出雲大社教東京分祠長千家活彦様、本局永澤穣、扶桑教教師岩本美和様

高松宮宣仁親王・同妃殿下御墓所



有栖川宮幟仁親王御墓所